

【芝富小学校】学校の望ましい教育環境に関する保護者懇談会の概要

日 時：令和6年8月1日（木）午後7時から8時まで

会 場：芝川公民館 会議室1, 2, 3

参加者：2人

主な意見

【適正化について】

- ・もう少しはっきり方向性を出していかないといけないと思う。最悪なのは、雰囲気を進めていって、反対の意見が出ないうちに方向性が決まってしまう。全国でもそういったことが多いと思う。
- ・適正化を考えたときに、親の負担をメインに考えるのか、教育的な人数のことをメインにするのか、こどもが少なくても多くても、こどもの周り是一緒だと思う。さらにいうと、人数が少ない方が、教員がよく見てくれると思う。
- ・自分の通っていた学校がなくなってしまって、統廃合で学校がなくなる寂しさは実感としてある。
- ・ほかの地域では、最後の方に問題になって、最終的に方針がひっくり返るようなことがあるから、適正化を進めるために、懇談会を実施した実績だけ作るようなことはしないでほしい。

【アンケートについて】

- ・こどもはあまりクラス替えがあったらとかは気にしていない。そういう意味では、アンケート結果で今のクラス数をちょうどよいと思っているのは、いいことだと考えている。
- ・こどもが通っている学校では、クラス数に変化がないからアンケートでも現状のことしか書けない。
- ・人数が多いと、友達がたくさんいていいというが、アンケートを見ると、人数が少ないからといっても、こどもは現状でもって満足していることがわかる。

【内房小学校】学校の望ましい教育環境に関する保護者懇談会の概要

日 時：令和6年8月2日（金）午後7時から8時まで

会 場：芝川公民館内房分館 集会室

参加者：4人

主な意見

【規模について】

・親としては、中学校で一緒になるのであれば小学校も一緒にいいのかなと思ったが、アンケートを見ると、こどもはクラスの人数が少ないことにそこまであまり考えていないのかなと思った。ただ、こどもそれぞれのことを考えると、思っていることは絶対あると思うので、その辺は難しい。

・内房小学校では、どの先生もこどもたちのことを把握してくれていて、サポートもしてくれてありがたく感じる。

【複式学級について】

・複式学級の授業参観に行った際、先生が見ていない時間の片方の学年の子が手持ち無沙汰になっていて、複式学級は難しいなと感じた。

・昨年まで配置されていた複式学級支援員が今年からいなくなったが、地域の人たちが面倒を見てくれるようになったのは小規模校の良い点だと感じた。

【人間関係について】

・例えば、運動会だと、クラス対抗戦ができるくらい的人数がいた方が切磋琢磨することができていいと思う。

・芝富小学校と内房小学校、稲子小学校の交流がもっとあったらいいなと思う。

・高校生になってクラス数が増えたこどもの様子を見て、うまくクラスにもなじんでいてあまり集団生活の面では心配しなかった。

【勉強について】

・少人数の子を一人の先生が教えている状況が十分ではないかといわれるが、全くそんなことはない。勉強面は心配になる。

・主体的に学ぶという教育方針の中で、人数が少ないとクラスで楽しくなっちゃって学びが進まない。人数が多い方が、いろいろな意見が出ることで今の教育方針に沿うような効果が出てくると思う。

【稲子小学校】学校の望ましい教育環境に関する保護者懇談会の概要

日 時：令和6年8月6日（火）午後7時から8時まで

会 場：稲子小学校 多目的室

参加者：5人

主な意見

【現状について】

- ・小規模校なので、いじめもなく、みんな楽しく学校に通っている。
- ・もっと友達が多くいけばいいのにとするのは親側の意見で、現状子どもたちはすごく幸せに暮らしている。
- ・複式学級の授業形態も、先生がほかの学年の授業をやっているときには、自分たちで授業を進めることができているので、何の問題もないと感じている。児童数が少ないのだから、ずっと先生に見ていられるよりは、今ぐらいの状態のほうが子どもにとっても良いと思う。
- ・少人数でも人間関係は存在していて、友達とどう接していけば良いのか考えていて、日々成長していると感じている。もっと多くの子どもたちとのかかわりを考えるのなら、学校同士の交流で補っていけばよい。
- ・小規模校の子どもは、委員会活動でも他人任せにできないから何でも自分でやるようになるし、発言する機会も多いので力がついていく。
- ・稲子小学校の子どもたちは基礎学力がしっかり身につけているから、中学に行っても困らない。
- ・稲子小学校区に自宅があっても、他の学校に通う児童がおそらく8人くらいはいると思う。
- ・ほかの学校に子どもを通わせている家庭は、子どもが小規模校が嫌だというよりは、親がPTAの役員をやりたくないなどの理由で行かせているケースが多いと思う。小規模校の良さが理解されていないと感じている。

【今後について】

- ・稲子を好きで移住してくてくれる人は、外国人でも、不登校の子どもでも受け入れていけばよいと思う。
- ・稲子地区に空き家があっても、なかなか人が住むようにならないのはアピールが足りないからなのかもしれない。

【柚野小学校】学校の望ましい教育環境に関する保護者懇談会の概要

日 時：令和6年8月7日（水）午後7時から8時まで

会 場：柚野公民館 集会室

参加者：18人

主な意見

【現状】

- ・両親は大規模校出身で、誰とクラスだったのかわからない状態だったので、自分のこどもには小規模校に通ってもらいたくて、柚野に移住してきた。
- ・柚野で生まれ育ち、小学校からずっと一クラスで中学まで通っていた。4年に1回は同窓会を開くほど今でも仲が良く、単学級はデメリットよりもメリットの方が多いと感じている。不満はない。
- ・市で行っている移住定住政策で柚野に引っ越してきた。地区に小学校があるのは子育て世帯には大きな魅力のひとつ。令和12年度には、柚野小学校の児童が50人になると推計が出ているが、移住者が見込まれるためそこまで減少することは考えられない。

【今後の取組について】

- ・小規模校に通わせていて今後心配なのは、高校で大きな学校に行くこと。その予行練習として他の学校との交流を実施してもらえると親としては安心する。
- ・柚野小中学校を小中一貫校や義務教育学校にしていくことで、残していけたらいいと思う。
- ・移住者を増やしていくことを考えていきたい。
- ・複式学級の市費支援員設置基準を変更するなどして、複式学級の授業がしやすい体制を市も考えてほしい。
- ・大規模校の児童を学区関係なく、小規模校に通うことができる制度をやってみるのはどうか。（小規模特認校制度）
- ・移住者を増やしていくためにも、地域をよくしていくために、今回のような地域懇談会を開催していくことはよいと思う。地域として協力していきたい。